

40th Gruppo Figaro anniversary concert

プロフィール&プログラムノート



◆安斎夏未

福島大学人間発達文化学類芸術・表現コース在学中。

第28回福島県ジュニアピアノコンクール上級金賞を受賞。第24回ショパン学生ピアノコンクール in TOHOKU 特級の部金賞を受賞。演奏活動のほか、合唱や器楽の伴奏にも取り組み、幅広い表現力を学んでいる。

◆矢吹拓夢

第21回ショパン学生ピアノコンクール in TOHOKU 高校生部門金賞。武蔵野音楽大学音楽学部演奏学科器楽コース福井直秋記念奨学金授与。第25回大阪国際音楽コンクール age-G エスポール賞。ポーランドショパン音楽大学夏期ピアノセミナー受講。2024年に郡山でリサイタル開催。仙台で浅野純子先生、坂本知穂先生をお迎えしてリサイタル開催。昭和音楽大学附属ピアノアートアカデミー研究科在籍。

◆只木杏奈

宮城学院女子大学音楽科を卒業。2008年ウィーン夏期音楽特別コースに参加。2011年ウィーン夏期音楽セミナーに参加。第27回ヤマハフレッシュコンサートなど、各種コンサートに出演。2020年駒澤好美と“ya.”を結成し、仙台と山形でジョイントリサイタルを行う。2025年、仙台で浅野純子先生をゲストにお迎えしてリサイタルを行う。現在演奏活動を行いつつ、後進の指導にあたっている。仙台シューマン協会会員。

◆石原チエ

宮城学院女子大学学芸学部音楽科卒業、同大学音楽科研究生修了。第8回東北学生ショパンコンクール大学生の部で銀賞受賞。徳島県在住。これまでにソリスト、伴奏者として多数のコンサート、イベントに出演。高松国際ピアノコンクールプレイベント「ピアノアンサンブルフェスティバル」には、5台ピアノで出演した。現在は自宅にて音楽教室を主宰し、ピアノやコーラス等、幅広く後進の指導にあたっている。

◆伏見姿

桐朋女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業。宮城学院女子大学音楽科研究生修了。第43回全東北ピアノコンクール第3位。第7回東北学生ショパンコンクール大学生の部銀賞。館ムジカ10周年記念コンサート、日本ショパン協会東北支部設立40周年記念コンサート、仙台桐朋会コンサートなどに出演多数。仙台こども専門学校、仙台幼児保育専門学校講師。抒情歌の会ピアニスト。仙台ピアノデュオの会会員。

◆宮崎紗耶子

常盤木学園高等学校音楽科卒業。宮城学院女子大学音楽科卒業、同大学研究生修了。卒業演奏会、読売新聞社主催新人演奏会、ポーランドクラクフ室内楽団との協奏曲のタペ、日本ショパン協会東北支部主催新人演奏会、ショパンファミリーコンサート、館ムジカ10周年記念コンサート、第17回JFCアンデパンダンでは初演となる「北陸未練」を演奏。現在聖和学園短期大学講師、自宅にてピアノ教室主宰、全国大学音楽教育学会会員。

ショパン:バラード第2番 op.38

この曲は、ロベルト・シューマンに献呈された作品で、穏やかな旋律から嵐のような急速部へと展開し、抒情と激情の鮮烈な対比が物語性を生み出す劇的な構成美が光る作品である。

グルッポ・フィガロは、大切な出会いと学びに満ちた場であり、私にとって大事な音楽と真摯に向き合うことが出来る時間です。館ムジカの一員としてこのステージで演奏することが出来てとても幸せです。感謝の気持ちを込めて精一杯演奏します。

ショパン:エチュード op.25-11「木枯らし」、ワルツ第5番 op.42

エチュードは激しさの中に、どこか寂しさを感じさせる雰囲気を持った曲です。この曲ならではの孤独感を感じていただけたら嬉しいです。ワルツは常に途切れずにメロディーが鳴っていて、そこに左手の和音の美しさが重なり、聴いていても心地よくなれると思います。

自分自身、小学校2年生から出演させていただいており、とても感謝しています。40周年に少しでも華を添えられるように、精一杯演奏させていただきます。

リスト:巡礼の年 第3年「エステ荘の噴水」

エステ荘はローマ近郊ティヴォリに建つエステ家の別荘で、そこには500以上の噴水があります。リストは度々ここを訪れ、66歳の頃にこの曲を作曲し、アルペジオなどで巧みに水の流れが表現される中にも宗教的要素を持ち、リスト晩年の傑作です。

私にとってグルッポ・フィガロは、励みになり温かく迎えてくれるステージです。音を奏でる喜びと先生方への感謝を込めて演奏出来ればと思います。40周年おめでとうございます！

フォーレ:3つの無言歌 第3番 op.17-3、舟唄 第1番 op.26

美しく、抒情的な旋律で「語らざるロマンス」とも表現される無言歌。フォーレの作品の中でも古典的で優雅な作品である。続く舟唄第1番は、心に浮かんで消える波の上を静かにたゆたう中に、深い優しさや力強さをも感じさせる。

真摯に音楽と向き合うこと。弾き続けてゆくことの尊さを、グルッポ・フィガロのステージから教えていただきました。学び合える場所を守り続けて下さった先生方に、心から感謝しています。

ショパン:ノクターン op.32-1、ソナタ第3番 op.58 第4楽章

大学卒業後から参加させて頂いているグルッポ・フィガロ。進む道が見えない時でも、この会に参加することは演奏を続ける励みになってきました。大変感謝しております。

ノクターンは美しい旋律がふと歩みを止めるように中断され、また流れ出す。コーダでは一変して短調となり、劇的な最期を迎える。ピアノ・ソナタ第3番を作曲した1844年は体調の悪化、また父の死去など精神的にも苦しい時期だったが、にもかかわらず、力強さ、雄大さを感じさせる傑作。終楽章はテーマを繰り返す度に激しさが増し、最後まで駆け抜ける。

チャイコフスキー:「四季」より～4月 松雪草、8月 収穫、11月 トロイカ～

「四季」はパテルブルクの出版社から依頼を受け、月刊誌「ヌヴェリスト」のために書かれた作品である。12ヵ月を描く小品には標題と詩が添えられ、ロシアの自然や人々の思づかいが鮮やかに映し出されている。

学生時代から参加させていただいたグルッポ・フィガロ。思うように参加できない時もありましたが、先生方の励ましに支えられ、今も演奏を続けることができています。この温かな支えに、心より御礼申し上げます。

【第2部】

◆小沼昌子

宮城学院女子大学音楽科卒業。同大学音楽科研究生修了。第38回全東北ピアノコンクール第2位。同大学音楽科コンサート、卒業演奏会に出演。研究生修了リサイタルを開催。日本ショパン協会東北支部第17回新人演奏会、同主催ファミリーコンサートに出演。野葡萄の会 4th Concert「協奏曲のタペ」にて仙台フィルハーモニー管弦楽団と共演。現在は合唱や室内楽の伴奏者。自宅にてピアノ教室主宰。

◆坂本知穂

桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業、ポーランド国立ワルシャワ・ショパン音楽院(現ショパン音楽大学)研究課程修了。Citta di Barietta 国際音楽コンクール第1位及びショパン特別賞、Racconigi 国際音楽コンクール第3位等国内外にて受賞。2014年ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 指導者賞受賞。全日本ピアノ指導者協会正会員。館ムジカ主催コンサートをはじめ各地で演奏活動を続けると共に、現在は後進の育成にも力を注ぐ。

◆小野真由美

宮城学院女子大学学芸学部音楽科ピアノ専攻卒業。第9回教育連盟ピアノオーディション奨励賞受賞、2018年2021年東北青少年音楽コンクール指導者賞受賞、2024年歌とピアノの演奏会を開催。ヤマハ音楽教室システム講師を経て現在サンリツ楽器ピアノ講師、自宅にて音楽教室主宰、チャペルのオルガン奏者として、声楽や器楽の伴奏もしている。

◆岩倉敦子

宮城教育大学音楽科卒業。第42回全東北ピアノコンクール本選出場、東北放送奨励賞受賞。2004年尚絅学院大学管弦楽団とグリークのピアノ協奏曲を共演。2010年ヤマハ主催「ショパン全曲連続演奏会」出演等。ソロ演奏の他アンサンブルの共演多数。現在も研鑽を継続し、また後進の育成にも努めている。(公財)日本ピアノ教育連盟、仙台シューマン協会、宮城県芸術協会各会員。

◆海鋒美由紀

宮城学院女子大学音楽科卒業、同大研究科修了。定期演奏会で仙台フィルと共演、読売新人演奏会出演。これまでに、ソロリサイタルをはじめ、声楽、器楽や合唱等の演奏会で多数伴奏を務める。宮城教育大学管弦楽団、SPERANZA ORCHESTRA と共演。2018年、2023年館ムジカの演奏会にて、恩師である浅野繁氏と2台ピアノで共演。宮城学院女子大学附属音楽教室講師、男声合唱団ビバボーイズ、音楽ユニット mi-no-ri、Stella の会ピアニスト。

モーツァルト:デュボールのメヌエットによる9つの変奏曲

1789年春に北ドイツを旅行中に書かれた変奏曲。チェリストで宮廷楽長のデュボールが作曲した「チェロと通奏低音のためのソナタ第6番」の優雅なメヌエットをテーマにし、彼の前で即興演奏したようだ。色彩豊かな変奏がつづき、第9変奏の終わりにテーマが美しく再現される。

私にとっては4回目の「グルッポ・フィガロ」出演。これまで繋いでこられた浅野先生ご夫妻・門下生の皆様に感謝しつつ、喜びをもって音を奏でたい。

ショパン:マズルカ op.24-1、2、4

繁先生、純子先生、グルッポ・フィガロ 40周年誠におめでとうございます!!

初めて出演させて頂いたのは第3回の会。先生方が創られる本格的なステージ、高校生や大学生の先輩方が舞台上に臨む凛とした姿はとても印象的で、終始緊張の中演奏したのを覚えています。

演奏させて頂く作品24は、パリに出て数年になるショパンが作曲家・演奏家ともに充実した時期に作られました。これまでの心よりの感謝と敬意を込めて演奏いたします。

ショパン:スケルツォ第3番 op.39

1839年作曲、弟子のグートマンに献呈。不意に、「気まぐれ」に始まる序奏。両手ユニゾンのオクターブによる第1主題。「讃歌」を飾る色鮮やかな細かい音のしづきの音型の第2主題は本当に美しい。再現部へと入り調性変化させながら現れる力強いオクターブからのコードは見事で、聴き手の心を奪う。

グルッポ・フィガロは毎年の目標です。いつも温かくご指導下さる先生方に感謝し、心を込めて演奏致します。

スクリャービン:ソナタ第4番 op.30

第4番(2楽章形式)は、第1楽章の主題が何度も現れる事から事実上の単一楽章と考えられる。彼はこの曲に「かすかに光る遠い星が段々近づいてくる。私はその星に向かって飛行する。その星はやがて目も眩む様な太陽になる。私はその太陽を飲み込み私自身が『光の海』になる。」と記している。

その世界観を私らしく表現し、もっと音楽を勉強したいと思うエネルギーを与えてくれるこの会への感謝の気持ちも込めて演奏できれば幸いです。

ドビュッシー:映像第2集より「葉ずえを渡る鐘の音」「金色の魚」

映像第2集(1907年)この時期のドビュッシーは、自然や詩的なイメージに強く惹かれていた。「葉ずえを渡る鐘の音」は、葉の間を漂う鐘の音を、柔らかく不規則なリズムと繊細な和音で巧みに描き、自然の美しさや静寂を感じさせる。「金色の魚」は、水の中を泳ぐ金魚の素早い動きを躍動感あふれるリズムと鮮やかな音色で描いている。

40年の歴史の重みと感謝を込めて演奏します。

【第3部】

フランク：ヴァイオリン・ソナタ イ長調 第1、4楽章

ベルギー出身の作曲家フランクが同郷のヴァイオリニスト、イザイに結婚祝いとして献呈した本作品は、結婚式当日にイザイとフランクによって初演されて以来、40年以上にわたりイザイが自身のレパートリーとし演奏し続けました。1楽章は穏やかな旋律から徐々に抒情的かつ情熱的に盛り上がり、4楽章はカノン風の楽想で輝かしく始まり、様々な感情を経て最後には喜びが爆発する大団円を迎えます。

グルッポ・フィガロ初参加は2歳(写真撮影のみ)、初演奏は4歳でした。待ち時間にお姉さんたちとゴム飛びで遊ぶのが楽しかったのを覚えています。(浅野みけら)

◆浅野みけら(客演)

仙台市出身。米インディアナ大学ブルーミントン校ジェイコブス音楽院にて学士号、修士号、パフォーマーディプロマを取得。兵庫県芸術文化センター管弦楽団(HPAC)にコアメンバーとして在籍ののち、現在ベトナムサンシンフォニーオーケストラヴァイオリン奏者。ベトナム日本友好国交50周年記念祝祭オーケストラ日本ツアー参加。日越外交関係樹立50周年記念ドラマ「ベトナムのひびき」出演。そのほかアジア諸国で活動中。

◆渡邊真司(客演)

東京音楽大学ピアノ演奏家コースを経て、同大学院修了。在学中、東京音楽大学特待奨学生、明治安田クオリティオブライフ文化財団奨学生。東京文化会館にて日本ピアノ調律師協会関東支部主催第14回新人演奏会に出演。第51回全東北ピアノコンクール第1位・文部科学大臣賞。第21回やちよ音楽コンクール第2位。ピアノを尾形牧子、斉藤久子、関根有子、石井克典の各氏に師事。現在、常盤木学園高等学校音楽科講師。

ドビュッシー：版画 より「パゴダ」「雨の庭」

C.ドビュッシー(1862～1918)作曲の版画は「パゴダ」「グラナダの夕暮れ」「雨の庭」の3曲からなり、1903年に作曲された。各タイトルの音による描写が特徴的で彼のスタイルを確立した作品といわれる。本日演奏する「パゴダ」は五音音階をベースに、1889年パリ万国博覧会で演奏されたガムラン音楽の影響も加わり東洋の雰囲気をかもし出している。「雨の庭」は雨が降り始めから激しくなり、やがて陽がさして来る情景がフランスの子どもの歌と進められる。終曲を飾る華やかな曲である。(浅野繁)